

大正9年~1920~

川西機械製作所

経営上の主なあゆみ

- 1920年 2月 川西機械製作所創立（神戸市兵庫区東尻池林字大竹1-6 合併地）飛行機および繊維機械の生産を開始
- 1924年 1月 大阪営業所新設
- 1926年 6月 事務所（旧館）新築
- 1926年 7月 所内に航空研究所設置
- 1928年 5月 日本初の試みとして金属プロペラの製造に着手
- 1928年11月 飛行機部を分離独立して川西航空機株式会社（現新明和工業株式会社）を設立
- 1929年 東京事務所を設置



創業者 川西清兵衛



川西機械製作所

川西機械製作所発足時の体制と事業分野

- (1) 設立：1920年2月 54名でスタート（個人商店）
- (2) 事業：飛行機と繊維機械
- (3) 体制と商品：
 - 飛行機部門：川西式一型機～十二型機（20機製造）
1928年に川西航空機株式会社（現新明和工業株式会社）を作り、移管
 - 機械部門：・日本毛織向け撚糸機、供毛機、縮絨機、モスリン機等
・生糸水分検査機、生糸接諸機、練習用爆弾
・人絹製造プラント
 - 衡器部門：標準原器、各種天秤、台秤、貨車、荷馬車の秤量器、ホップスケール、風洞天秤、材料試験機
 - 精密部門：リミットゲージ、人絹製造用ギヤポンプ、プロペラ

製品のあゆみ

その他



精紡機輪具
(1920)
(機械部)



コーマー
(1920年代)
(機械部)



川西式一型機 複葉陸上機)
(1921～Ⅱ飛行機部)

衡器製造開始
(1922)
(衡器部)



人絹用乾燥機
(1930)
(機械部)

世界中のあゆみ

- 1921年 3月 度量衡法改正公布（メートル法採用）
- 1923年 8月 富士電機製造株式会社創立
- 1923年 9月 関東大震災おこる
- 1925年 7月 JOAKラジオ本放送開始
- 1927年 5月 リンドバーグ大西洋無着陸横断成功

製品のあゆみ中

印は写真掲載分
印は写真掲載なし
用品はディラーオプション品を指す

昭和6年 ~ 1931 ~

川西機械製作所

経営上の主なあゆみ

- 1932年 2月 株式会社川西機械製作所に組織変更
- 1935年 10月 通信機（無線および有線）の製造を開始
- 1936年 8月 真空管の一貫工場完成、工場量産に移行
- 1937年 8月 研究所を設け、材料、真空管・通信機に関する研究を統合
- 1937年 11月 本社事務所新築落成
- 1938年 8月 川西録音研究所設置、録音機の製作開始
- 1939年 2月 明石郡大久保町西脇字塚本に約320,000㎡の敷地買収
- 1939年 12月 通信機工場完成
- 1940年 4月 京都工場新設
- 1940年 11月 大久保工場通信機東西2棟、硝子工場絶縁本工場完成、本社工場より逐次移転

通信

- 有線電話機（1936）
- 方向探知機（1937）
- 船舶用無線機（1937）
 - { FBQ型 125W 無線電信電話送信機
 - { FD型 25W 無線電信電話送信機
- 軍用500W無線通信機（1938）
- 陸軍向け長・中・短波電信電話装置（1940～）

製品のあゆみ

その他



タングステン・モリブデン
織糸 T29 MQ(1934)
(電子管)



水冷管
C-167, C-207
(1938 ㄨ 電子管)



川西ペントード
E-2057(1939)
(電子管)



発振電球
FB-325A
(1939 ㄨ 電子管)

世の中のできごと

- 1931年 9月 神戸市に区制実施
- 1934年 9月 室戸台風来襲
- 1938年 4月 国家総動員法公布
- 1939年 7月 国民徴用令公布
- 1939年 9月 第二次世界大戦

昭和16年~1941~

川西機械製作所

経営上の主なあゆみ

- 1942年 4月 岐阜工場開設
- 1942年 6月 東京事務所、社屋新築
- 1942年 7月 大阪硝子工場開設
- 1943年 8月 明石工場開設（明石市茶園場町1772）
- 1944年 1月 軍需会社に指定される（本社、大久保、岐阜の各工場 軍需陸海軍大臣指定）
- 1944年 2月 青木工場、弥富工場開設
- 1944年 6月 苅藻工場新設
- 1944年 11月 日本製粉神戸工場買取
- 1945年 12月 衡器部門を明石工場に移転し大和製衡株式会社として分離



営業品目案内

通信

日本海軍向け中・短波無線機
(戦闘機、爆撃機用) (1941)

極超短波多重電話装置 (1941)

株式会社になった(株)川西機械製作所の体制と事業

- (1) 設立：1932年2月8日
- (2) 資本金：100万円 (1932年) 3,800万円 (1944年)
- (3) 人員：設立時 (不明) 約2万人 (1944年)
- (4) 事業：機械部門 (繊維機械、衡器、精密機械) と弱電部門 (真空管、通信機)
- (5) 主要製品：
 - ・陸軍関係：航空機機体部品、発動機部品、プロペラ、通信機、真空管、硝子碍子
 - ・海軍関係：航空機機体部品、各種測範模範類、航空機搭載砲銃架、精密ネジ、信管および同部品、真空管、通信機、照明用電球、硝子碍子
 - ・民需：衡器、材料試験機、繊維工業用機械、X線管球、炭化タングステンバイト (超硬質合金)、タングステン・モリブデン線条、ダイヤモンドダイス、カップロイドダイス、通信機、真空管、録音機
- (6) 工場、研究所の拡充：
 - ・東京試験場 (のちの東京通信機工場) (1937年) ・大久保工場 (1939年)
 - ・岐阜工場 (1942年) ・明石工場 (1943年) ・弥富工場 (1944年)
 - 他 京都工場、大阪硝子工場、青木工場、苅藻工場
 - ・研究所 (1937年) ・川西録音研究所 (1938年)

製品のあゆみ

その他

世の中のできごと

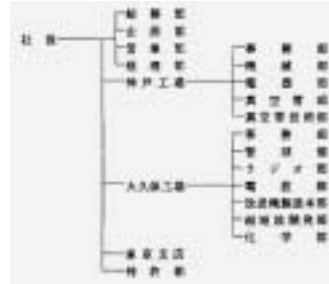
- 1941年 12月 太平洋戦争おこる
- 1942年 5月 企業整備令公布
- 1943年 10月 軍需会社法公布
- 1944年 12月 東南海地方大震災
- 1945年 8月 広島、長崎に原子爆弾投下

昭和21年～1946～

川西機械製作所 神戸工業株式会社

経営上の主なあゆみ

- 1946年 1月 商標TEN 制定
- 1946年 1月 神戸、大久保、京都工場民需品生産転換許可
- 1947年12月 技報・川西キカイ創刊
- 1949年 1月 九州事務所開設
- 1949年 4月 名古屋事務所開設
- 企業再建整備計画により(株)川西機械製作所は神戸工業(株)、灘瑠珈(株)、(株)小野ガラス工業所の第二会社3社を設立して解散清算事務に入る
- 1949年 8月 神戸工業株式会社設立

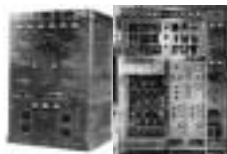


技報・川西キカイ創刊 (1947)

通信



鉄道用災害無線機
A3 50W GXR-50PG
(1946)



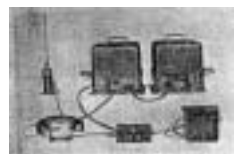
気象庁殿向け50~500W
短波無線送信機
(1948~1955)



中・短波帯
無線送信機
(1946~1957)



中波ラジオ放送機
NHK松江殿向け
(1950)



神戸市警察殿向け
30MHz無線機
PR-1 (1950)

製品のあゆみ

CI

(Car Infotainment)



スーパースター国民型ラジオ
DR-1S5A (1946)



テンラジオ スーパースター
DR-1S5B (1949)

(株)川西機械製作所から神戸工業(株)への事業分割

1949年8月

弱電部門(各種電子管、同材料、通信機、ラジオ)
機械部門(縦横機械、精密機器)

神戸工業(株)

一般家庭用品

灘瑠珈(株)

電球バルブ、医療用アングルチューブ
理化学用特殊硝子製品

(株)小野硝子工業

軍用製品

中止

飛行機

(*1928年に移管)

川西航空機(株) 1949年に
新明和工業(株)に変更

衡器

(*1945年に分離)

大和製衡(株)

その他



ラジオ用
ST管 UZ42
(1946)



レピーターチューブ
CZ-501
(1947) (電子管)



マグネロン
SP232F
(1949) (電子管)



GT管
6V6GT
(1949) (電子管)



ガイガー計数管
GM-131A
(1950) (放射線)



ポータブルラジオ用
電池管 (MT管)
(1950) (電子管)



100KW送信管
9T62B
(1950) (電子管)

世の中のできごと

- 1947年10月 トヨタ、トヨペットSA型生産開始
- 1947年11月 道路交通取締法公布
- 1948年 3月 全日本自動車産業労働組合結成
- 1948年 4月 自動車工業会設立
- 1949年 4月 自動車輸出振興会設立
- 1950年 6月 電波3法施行